



## 「十字架こそが救いの道」

～神の救いのご計画の神秘～

「この『愚かしい』神の計画は、最高の知者の最も賢明な計画より、はるかにすぐれた者です。また、キリストの十字架上の死という神の弱さは、どんな人間の強さよりも強いのです。」  
コリント人への第一の手紙1章25節 [リビングバイブル]

大川牧師の尊敬する小林和夫先生の文章です。

「…そこで、教会では工夫をして『あまり十字架のことは言わないようにしましょう。復活などということは言うまい。そういうことを言うから人々は教会に来にくいだから。ただ、イエスさまを信じればよいのだよ』と、歴代の教会がそういう誘惑にあつて来たというのは、教会の歴史です。…福音に着色したり、水増ししたり、人間の考えでやさしくすることによって受け取りやすくしようとしたのです。そこから異端が生れてくるのです。…。『先生。十字架や復活を言わなくても、もっと別な言い方はないのですか』。聖書は『ない』と言います。それを信じることによって救われるように、神が定められたというのです。…。でも、どうも十字架というのを聞くのは都合が悪い。『あなたの罪は、十字架によって赦されるのですよ。あなたはこんな罪を犯しています』と言えば、自分もその罪を認めなくてはなりません。しかしそれを回避しては、救いはないのです。…。しかし、『イエスは主である』と信じるとはどういうことかという、『このお方は私の救いのために十字架にかかって罪の身代わりとなって下さって、私の永遠の命のために復活して下さい』と信じることなのです。『イエスさまが好きだとか、イエスさまは愛のお方だから大好きだ』というのとは、違うのです。いわゆる、文学的レベルではなくて、そこは、私たちの信仰の問題ということになっていこうと思えます。」

そして、聖であり義である神様が人間を愛し、救うために十字架が不可欠だった。その計画を導き出した神の知恵は、人間の知恵から見たならば、ただ愚かにしか見えないが、その人間から見て考えられないような愚かな「ひとり子を十字架につける」という方法を通して救いの道を実現した神の知恵は、この世のどんな知恵に勝って力強く輝く栄光の姿であることを十字架は物語っているのだとパウロは語りたかったのです。

私たちはこの福音を証するという使命を与えられています。その証する方法も、この世の知恵に勝って証しをしていかなければなりません。私たち自身がその神の知恵に満ちていなければ決して表現することはできません。今もイエス様は私たちと共にいて福音を証してください。ですから、決して臆することなく、大胆にキリストを証ししていきましょう！

イエス様ご自身も「どう語ってよいかと心配しないがよい。あなた方の内におられる父の霊＝聖霊が証しして下さいます！」とおっしゃいました。ですから、私たちは心配しません。イエス様を信じるとは、どんなときにも心配しないということなのです。